

3. 調査結果からの傾向

(1) トピックの整理

○卒業後の進路

市内大学生は9割程度が卒業後に就職を選択しているのに比べ、首都圏若年層で就職を選択したのは3割程度に留まり、起業・進学・編入などの選択をする割合も多かった。特に進学を希望する割合は就職より高い割合になっている。学部別傾向としては、首都圏理系が最も就職の選択率が低く、進学・編入の割合が高かった。

○就職（もしくは転職）活動時に参考としたメディア・媒体等

市内大学生の回答割合は高いが、首都圏若年層の回答では割合が低いものがいくつか散見される。

※「個別企業・団体の公式HPや公式SNS」「合同企業説明会」など

その逆にあたる回答は見当たらないが、共通して高かった回答は「個別企業・団体の説明会(セミナー)」だった。

利用するSNSの性別傾向として、市内大学生・首都圏若年層いずれもInstagramは女性の方が使用率は高く、LINEは男性の方が高い。首都圏女性を除いて、他全ての属性でXの使用率が最も高かった。

○就職先（転職先）について重要だと考えること

市内大学生の回答で最も多かったのは賃金であり、首都圏若年層でも変わりはないが、回答割合の偏りは全く異なる。首都圏若年層の方が、市内大学生に比べ多様な価値を求める傾向にある。

○就職先（転職先）検討にあたり、もっと知りたかった情報

前段で重要視をする項目と紐づき、市内大学生では給与→福利厚生条件→人間関係の順に情報を必要としている。

首都圏若年層では、福利厚生条件→給与・具体的な仕事内容・配属先情報→教育・研修制度の順に情報を必要としている。

これらの情報を得るために、企業と直接コンタクトが取れるセミナーや、社内の雰囲気を発信するSNS等や新卒採用ページなどの拡充が必要と考える

○希望していた業種/実際に就職先(転職先)として決まった業種

市内大学生の希望業種として公務が圧倒的であることに比べ、首都圏大学生では多少の浮き沈みはあるながらも、ある程度均等的に選択された希望業種が分かれていることがわかる。

札幌市および道内の立地企業の業種分布に連動する影響や、地元からの転出を希望しないものは地方公務を希望する傾向もあるのかもしれない。

○希望していた職種/実際に就職先(転職先)として決まった職種

市内大学生は希望職種として事務職を挙げた割合が最も多く、クリエイティブ職が最も少ない。首都圏若年層でも事務職を挙げた割合は最も多かったが、市内大学生ほど割合の偏りはなく、他の職種希望者もある程度均等的に存在する。

首都圏に比べ、市内大学生の希望職として低かったものは商品企画・マーケティング職、販売・サービス職、クリエイティブ職、生産管理職などが挙げられる。

市内も首都圏も希望していた職種より、営業職・販売職に配属された割合は多少上がっている。

○就職(転職)先として希望する勤務地

市内大学生は就職先として道内に留まりたい希望の者が7割弱存在し、道外へ転出したい希望を持つ者は2割程度存在する。

首都圏若年層では、道内へ戻りたいと考える者は2割程度で、6割程度はそのまま道外に留まりたいと考えているが、まだわからないと考えている者も2割程度存在している。

性別傾向として、市内大学生、首都圏若年層いずれも道内を選択する割合が男性に比べ高い。

○道内での就職を希望する理由または UJ ターンを検討(希望)する理由

首都圏若年層で道内での就職を希望(又は検討)する理由として最も多かった理由として自然環境や風土を挙げている。市内大学生とは出身地であることと、実家から通えることが共通して高い割合を示す。

○道内企業への就職検討について

就職先として道内を選択しなかった者の 6 割以上は、過去に道内での就職も検討していると回答している。(市内大学生のみの調査)

○将来、地元に戻る意思について

市内大学生で、希望勤務地として道内を選択しなかった者の回答で、将来は戻りたいと考える者は 3 割弱、戻りたくないとするものは 2 割強存在しているが、わからないと回答しているものが過半数の 6 割強存在する。首都圏若年層では、UJ ターンを検討した(又はしている)者は 5 割強存在しており、今後検討するかもしれない潜在層は 3 割程度存在する。

○U(I)J ターンにおいて障害だと感じるもの

UJ ターン就職(又は転職)の障害だと感じるものとして、就職活動にかかる交通費は市内大学生・首都圏若年層ともに上位に挙がっている。首都圏若年層として感じているのは地元求人情報へのアクセスのしづらさであり、地元求人の雇用条件の低さも高い理由として挙がっている。

○U(I)J ターンの支援策として必要と感じるもの

UJ ターンの障害だと感じるものと被るが、支援策が必要なものとして受入希望企業(求人情報)の情報の支援が必要という意見が最も多かった。次いで住居に関する情報支援を求める声が多い。

○U(I)J ターンの支援策としてあったら良いと感じるもの

道内企業の情報や、道内企業とのコミュニケーションの機会が必要とされている。

同じくらいの割合で、面接や就職活動における移動交通費の補助や、転居引っ越しに係る費用補助、家賃補助などの支援を必要とする声が多い。

○U(I)J ターンを検討するために、企業・団体等に取り組んでほしいこと

市内大学生、首都圏若年層ともにリモートワークの推進を希望する声が多い。

また、週休 3 日制やフレックスタイムなど時間の縛りを緩和した働き方を認めてほしいという声も多い。

○U(I)J ターンをする場合の情報入手先について

市内大学生、首都圏若年層ともに情報の収集先として最も多かったのは民間の就職・転職支援サイト。

市内大学生では次いでハローワークを挙げる意見が多かったが、首都圏若年層では求人情報誌を挙げており、多くが民間のサービスを利用していることになる。

Ⅲ. 北海道 UJ ターン経験者就職・転職に関するグループインタビュー

1. グループインタビューの概要

a.対 象 道内出身者で一度道外へ出て、札幌で勤務している 39 歳までの方々

b.日 時 2024 年 2 月 23 日(金) 13 時 30 分～16 時 30 分

c.場 所 北海道自治労会館（5 階 第 3 会議室）

d.参加者 16 名

e.インタビュー方式

各グループへテーブルファシリテーターを 1 名付け、UJ ターンによりさっぽろ圏企業へ就職を行った社会人に対し、就職・転職活動における実態についてグループインタビューを実施。

謝礼金として参加者には 5,000 円分のギフト券を進呈した。

グループ

- ・ A グループ/新卒（一部転職）による UJ ターン者
- ・ B グループ/転職（一部転勤）による UJ ターン者
- ・ C グループ/既婚者(一部未婚者有)

f.グループインタビューの議題

議題 1：UJ ターンによる就職（又は転職）をした動機や背景

議題 2：UJ ターン転職・就職をして良かったこと

議題 3：UJ ターン転職・就職活動をして大変だと感じたこと

議題 4：自身の経験を通し、こういったサポートがあれば助かったと思うことはあるか

(開催風景)



2. 各インタビュー内容

議題1. UJターンによる就職（又は転職）をした動機や背景

- (1) UJターンによる就職（又は転職）について、いつ頃から考えるようになりましたか
- (2) きっかけはなんでしたか
- (3) 親や周囲の意向はありましたか
- (4) 他の自治体への UJターン就職（または転職）も検討しましたか

(1) UJターンによる就職（又は転職）について、いつ頃から考えるようになりましたか

OA グループ

- ・最終的には北海道に帰ってこようと考えていたため、具体的に考え始めたのは大学受験のタイミング
- ・就活シーズンが始まってから
- ・大学4年生で就職を考えた頃から
- ・大学3年の就職活動の面談の頃くらいから
- ・修士の進学を決めた頃から
- ・高校3年生の就職活動の時

OB グループ

- ・2020年くらいにコロナが流行し始めた頃から
- ・Uターンする4年前くらい。高卒で就職し道外に出たが、ずっと北海道には帰りたいと考えていた
- ・転勤だったので社内の内示だった
- ・転出してから7年ほど経過してから

OC グループ

- ・夫の転勤先の職場環境が悪く、転職も少し考えていたが、北海道への転勤の話があり、戻ってこられた。
- ・東京の大学に入った頃から考えていた
- ・結婚相手の実家が自営業で、稼業を継ぐために北海道に戻ってきた
- ・父の体調が悪くなってきた頃から考えていた
- ・都内で働き始めて2年くらい経った頃から

(2) きっかけはなんでしたか

OA グループ

- ・兄弟も道外に出ていて帰ってくる意志がほとんどないと聞いていた。誰かは親の近くにいた方が良いと思っていた
- ・就活時から考えていた。東京等の首都圏で働くより、地方でゆったり働きたいと思った
- ・大学4年生の時、教員採用試験に落ちてしまいどうしようか考えていた時に、大学から地元の企業に働きかけてくれたことをきっかけに就職した
- ・都内で働きながら過去札幌に住んでいたことを思い返し、自分にはそっちの方が合っていると思ったため
- ・元々修士の2年間だけ道外で過ごし、北海道に戻ろうとは考えていた

OB グループ

- ・コロナの影響から仕事がりモートになり、出社の必要がなくなったため

- ・初めての一人暮らしが寂しすぎた
- ・家族の伝手で道内での違う仕事の話があったことから
- ・母が体調を崩して「戻ってきて欲しい」と相談されたことがきっかけ

OC グループ

- ・就職した職場の環境が悪く転職をきっかけに戻ろうとおもった
- ・父が亡くなり、母が一人になることを心配して
- ・同性していた道内出身の交際相手と将来のことも考え戻った

(3) 親や周囲の意向はありましたか

OA グループ

- ・兄が名古屋在住で近いところにいるため、親から「北海道にいた方が安心できる」と言われた
- ・道外の大学に行くこと決まった時から、親からは「北海道ならどこでもいいから戻ってきてくれ」というような願いは、ずっとされていた
- ・大学在学時に就職の話をしていたら「戻ってくるのか？」というプレッシャーはあった
- ・「戻ってくると思わなかった」と言われるほどで、親の意向はなかった
- ・基本的には「道内に限らず自分が就職したいところに進むように」という感じ

OB グループ

- ・住むなら同じ道内の方が安心のようではあった
- ・親は「もう行ったんだから帰ってくるな」と言って、最初はとても反対していた
- ・親は本人任せという感じ

OC グループ

- ・自分で判断した。親も「勝手にしろ」という雰囲気だった
- ・結婚を機に戻ったが、職場の方々は肯定的だった。親、兄弟とも肯定的だった
- ・(私が東京での一人暮らしを不安に思っているのを) 兄が同じように考え、「戻ってきた方がいいんじゃないか」と勧めてくれた。母は「都内で仕事を続けたいのなら残っていてもいいんじゃない？」と言っていたが、最終的に戻ることになった時、すごく嬉しそうだった
- ・「任せるよ」という感じで、特に何もなかった

(4) 他の自治体への UJ ターン就職（または転職）も検討しましたか

OA グループ

- ・大学が九州だったため福岡も検討した
- ・「東京か札幌か」の2択だった
- ・大学が宮城だったため、東京・宮城・札幌で教員採用試験を受け、受かったところに行こうと考えていた
- ・札幌近郊は多少検討した
- ・インターンで行ったことのある他の自治体(青森や東京)も若干検討した
- ・東京に行きたかった

OB グループ

- ・他の自治体については検討していない

- ・検討していない
- ・他の自治体は検討していない
- ・検討していない
- ・東京に住みたいという気持ちはあった

OC グループ

- ・できれば東京に住みたかった
- ・出身の小樽市に戻ることも考えていた（Web デザインの仕事が全くなかったことで断念）
- ・大阪や海外も検討した

◆UJ ターンによる就職（又は転職）の検討時期

- ・インタビュー参加者（以下「参加者」という。）の中で、グループ A の参加者からは、就職活動時期から UJ ターンを考えていたという意見が多くあがった。大学受験の頃からと答えた参加者もいた。
- ・グループ B の参加者からは、「大学を出て道外で就職をしてからすぐ」という意見や「コロナが流行してから」、「U ターンする 4 年くらい前」、「母親が体調を崩してから」等様々な意見があり、検討時期は人によって異なっている。
- ・グループ C では、「夫の転勤先の職場環境が悪かったため、転職も視野に入れて戻ることを検討した」という回答や、「結婚相手の実家の稼業を継ぐために戻ることを決めた」という回答等があり、配偶者の状況や意向で UJ ターンを検討したという参加者がいた。また、「父親の体調が悪くなってきた頃から考え始めた」という参加者もいた。
- ・新卒の UJ ターン者は就職活動時期から検討している参加者も多い。転職の検討時期は様々であるが、もともと何となく抱いていた「戻りたい」という気持ちを何らかのきっかけにより実行に移したという意見、家族の状況の変化に合わせて戻ってきたという意見、実際に首都圏等での生活に違和感を覚え、「戻る」という選択肢が沸き起こってきたという意見、その他不本意ながら戻ることを余儀なくされたという意見も見受けられた。

議題2. UJターンによる就職（又は転職）をして良かったこと

- （１）良かったと感じることはどんなところですか（生活環境、仕事環境、その他）
- （２）UJターン経験者として、さっぽろ圏で生活する魅力を教えてください

（１）良かったと感じることはどんなところですか（生活環境、仕事環境、その他）

OA グループ

- ・ 札幌の良い高校の友人が数名いるところ
- ・ 実家にすぐ帰ることができるところ
- ・ 災害が少ないところ
- ・ 札幌市は交通の選択肢がたくさんあり、中心部に住んでいれば車がなくても生活できるところ
- ・ 家賃が安い割に便利な生活ができるところ
- ・ 何かあれば実家に頼れる。車や保険等、自分でいろいろやらなければいけない時に、実家が近いと相談ができる
- ・ 地元なので住み慣れた環境というのがすごく大きい
- ・ 梅雨や湿気等も全然なくて、すごく住みやすい
- ・ 友人に会いやすい
- ・ 通勤手段に困らない

OB グループ

- ・ 本社から離れれば離れるほど、ゆるくのびのびと働ける
- ・ 大らかな人が多いところ
- ・ ほどよく田舎であり都会でもあるところ
- ・ ウィンタースポーツができるところ
- ・ おいしい味噌ラーメンが食べられるところ
- ・ 北海道の人は、優しいと感じる
- ・ ゴキブリが出ないところ
- ・ 訪問営業が少ないところ
- ・ 水が美味しいところ
- ・ 人が優しいところ
- ・ 札幌は街が碁盤の目になっており、地図等が見やすい
- ・ 土地代が安い
- ・ 夏が涼しい
- ・ ご飯が美味しい
- ・ 札幌周辺で働ける場所等が多く集中していて何かと便利
- ・ 北海道は「満員電車」と言っても満員ではなく、意外と余裕がある

OC グループ

- ・ 職場の雰囲気がすごく良かった
- ・ セイコーマート（セコマ）がある
- ・ 食べ物が美味しい
- ・ 母と近くにいたのが安心する

- ・母が家事をするためにたまに来てくれるので、とても助かる
- ・住み慣れていて安心感があるというところ
- ・親族の近くにいて安心できる
- ・気候が良い

(2) UJ ターン経験者として、さっぽろ圏で生活する魅力を教えてください

OA グループ

- ・スノーボード等のウィンタースポーツをやる人であれば、色んなスキー場に行きやすい
- ・地下鉄やバス等の交通網が充実しているところ
- ・ゴキブリがいない
- ・市電、地下鉄、JR、バスなど交通の選択肢がたくさんある
- ・雪が積もっても地下鉄は平常運行するため支障がない
- ・街の中心部が今再開発でどんどん生まれ変わっている
- ・どこのラーメン屋に入っても美味しい
- ・ご飯が美味しい
- ・どこへ行くにも車でアクセスがいい
- ・観光としての見どころが周囲にたくさんある

OB グループ

- ・道や公園も広く、建物の間もすごく広い
- ・物価が安い
- ・北海道限定の品も多い
- ・雪まつりやオータムフェスト等、大規模な季節のイベントが多い
- ・札幌ドームがあるので（コンサート等の）大きなツアーにおいて、札幌も開催地になる
- ・買い物もご飯もジムも、札幌駅の周辺や地下で用事がすべて済むのでラク
- ・電車やバスに乗っている人が少ない
- ・電車で大声を出している人等、変な人があまりいない
- ・四季が美しいこと
- ・稚内や知床などにも出向けるし、東京へも気軽にアクセスできる
- ・家賃も安く、スーパー等もたくさんあるため住みやすい
- ・自転車を停める際にお金がかからない

OC グループ

- ・ウィンタースポーツが北海道は多い
- ・雪に触れる楽しさがある
- ・涼しいこと
- ・太陽光が入ってきやすい
- ・地下鉄がとても便利
- ・札幌市は都市の感じと自然の感じが両方とも一緒にある
- ・山も海も車で行きやすい
- ・魚が美味しい
- ・自然が身近にある

- ・春夏秋冬がしっかりしている

<議題2.意見のまとめと傾向>

◆良かったと感ずること（生活環境、仕事環境、その他）

- ・グループ A～C の参加者から多くあがったのは「親や兄弟、友人が近くにいと安心する」ということだった。また、「人が穏やか・優しい」という意見も多かった。
- ・グループ A の参加者からは、交通の便が良いこと、梅雨がなく住みやすい気候であること等があげられた。住み慣れた街なので生活がしやすいという意見があった。
- ・グループ B は、「札幌から大通間が便利」という意見が多かった。さらに、雪遊びができるところ、水やご当地グルメが美味しい、ゴキブリがいない、涼しい、電車に余裕が感じられる等の意見があった。その他では、家庭訪問勧誘が比較的小さいという意見もあった。
- ・グループ C の参加者からは、セイコーマートがある、交通が便利、気候が住みやすい等の声があった。また、「(道外出身者から) 食べ物が美味しいと言われることが嬉しい」という意見もあった。
- ・「人が優しい」、「親族や友人が身近にいて安心」等、精神面で良かったと感ずている参加者や、「家賃が安い」「気候が快適」、「交通の便が良い」等、生活面で住みやすいと感ずている参加者が多かった。

◆さっぽろ圏で生活する魅力について

- ・グループ A～C の参加者から一番多くあがった魅力は、「四季が感じられる」といった自然環境的なことであつた。
- ・グループ A は、「交通の選択肢がたくさんあること」と「ご飯が美味しいこと」という意見が多かった。その他、ウインタースポーツができる場所へのアクセスが良いこと、ゴキブリがいないこと、都市開発が進んでいること、都会感と田舎感が程よく共存していること等が魅力としてあがった。
- ・グループ B は、物価や家賃が安いことが魅力であるという意見が多かった。その他、「道や公園、建物の間が広い」、「北海道限定商品が多い」、「大規模な季節のイベントがある」「(道外に比べて) 電車等に乗っている人が少ない」等の回答があつた。また、街の中心部以外であれば、自転車が無料で停められることが魅力として大きいという声もあった。
- ・グループ C の参加者からは、ウインタースポーツが多いこと、夏が涼しいこと、地下鉄が便利なこと、魚が美味しいこと、自然が身近にあること等があげられた。また、建物が密集していないこと等の理由から、「部屋の中に太陽光が入ってきやすい」と答えた参加者もいた。
- ・食べ物が美味しいことを魅力としてあげる意見が多かった。また、都会と田舎が共存しており、自然が身近にある環境が魅力だという意見も多く見られた。

議題3. UJターン転職・就職活動をした上で、大変だと感じたこと

- (1) 転職・就職活動の妨げや課題だと感じたこと
- (2) 移動距離や金銭面以外に、負担を感じたこと
- (3) 上記の妨げや課題・負担を和らげるためにどんなことを行いましたか（Webの活用等）

(1) 転職・就職活動の妨げや課題だと感じたこと

OAグループ

- ・距離が遠いこと
- ・有名な転職サイトを使用していたが、求人情報を集めることが結構大変だった
※道内の大学等であれば、大学向けの求人等が結構くると思うので、そういう意味で、(道外では) 選択肢がどうしても少なくなってしまう
- ・移動等に係る金銭面が一番大変だった
- ・大学の授業との兼ね合い
- ・就職先の担当者との顔合わせの日程調整
- ・大学の授業との調整が難しい
- ・物件探しがとても大変だった

OBグループ

- ・北海道の求人に対応していない転職サイトやエージェントが複数あったので、とても苦労した
- ・(転職に関する) 会社との話し合いが大変だった
- ・Web面接がやっていないことで現地に行かなければならないことが面倒だった
- ・札幌での生活費が意外と高いところ (水道代が全国より高い。冬の燃料コストもかかる)
- ・髪色・ネイル自由というところがとても少ない
- ・賃金がかかなり低い

OCグループ

- ・住むところを探すのが一番大変だった
- ・子どもの保育園の転園手続きがとても大変だった (転園手続きも一年間できなかった※入園希望のやり取りが平日の電話でしかできない、ネットで空き状況を見ることができない等)
- ・新千歳空港から札幌中心部までの距離 (大阪や東京と比較して不便)
- ・職場の雰囲気などの下見ができない。情報を得ることがすごく難しかった
- ・(面接なども含め) リモート対応を行う企業が少ない
- ・家探しが大変 (内覧の日程が取れないなど)
- ・面接や引っ越しなどの金銭面
- ・求人があるのかという不安
- ・住むところを探すこと
- ・転職活動において札幌市は職場エリアが広すぎて、住所から行ける場所を探さなければならない
- ・JR通学をしていたのだが、頻繁に遅れる
- ・JR運賃が東京に比べて高い

(2) 移動距離や金銭面以外に、負担を感じたこと

○A グループ

- ・JR や飛行機が止まるという交通障害があること
- ・オンライン面接の難しさ、伝えにくさ等
- ・北海道全域が異動エリアになってしまう求人が結構多いこと
- ・移動が天候で左右されるところ
- ・実際に見に行くことができないため、職場の雰囲気等がわからない（オンライン面接でも、面接官と背景くらいしかわからないので、職場が実際どういう感じなのか全然わからなかった）
- ・日帰りでは日程が組めないため宿泊費がかかる

○B グループ

- ・本土に比べネット購入したものの到着に日数がかかるのととても負担
- ・新居を探す時の内見も日帰りでは厳しい
- ・Web 内覧できる物件が少ない（Web 内覧に対応していたとしても、結局その場所の治安や利便性等、住んでいる場所の担当者からしか聞けないような話、あるいは洗濯機の排水やコンセント位置など細かなところが確認できないので現地で見ると必要性はある）
- ・飲食店のバリエーションが少ない
- ・引っ越し時の大型家電の処分が一番困った

○C グループ

- ・保育園調整がネットで閲覧できない
- ・引っ越し先を探すと（現地業者がわからないので、まとめサイトで見積もりを依頼したら、いろいろるところから訳がわからなくなるくらい営業の電話がかかってきた）
- ・ガソリン費や燃料費がとんでもなくかかるようになった

(3) 上記の妨げや課題・負担を和らげるためにどんなことを行いましたか（Web の活用等）

○A グループ

- ・授業・単位等は全て取得していたので大学4年時は実家に引っ越して生活をした
- ・できるだけオンライン面接対応している企業を選んだ
- ・（当時はコロナ禍だったので）先生に申し出て、パソコンの画面でゼミの授業を受けさせてもらった
- ・なるべく就活自体は実家や友人の家に泊まって金銭的な負担を減らしていた
- ・面接等で「何日には戻ってしまうので、何日までに最終面接できますか？」という感じで交渉をしていた
- ・実家に帰省したタイミングでなるべくまとめて面接できるように日程調整をしていた

○B グループ

- ・地元の友人に前もっていろいろ尋ね、情報を得てから転勤した
- ・いろいろな派遣会社に登録した
- ・引っ越し時の不用品の処分には掲示板サイトを活用した
- ・引っ越しは業者に頼まず、父の車に荷物を積み、フェリーで運んだ
- ・引っ越しで、持っていくか捨てて買いなおすか悩み、引っ越し業者の人に相談したところ「北海道だったら、捨てて買いなおした方がたぶん安い」と助言を受けたためそうした

○C グループ

- ・(転職を決めた際に)直属の上司に結構早い段階から相談をしていたことで、すごく具体的なアドバイスをしてもらえた
- ・会社を辞める時に「ここまでいたら賞与が受け取れるよ」というアドバイスをもらいとても助かった

<議題3.意見のまとめと傾向>

◆転職・就職活動の妨げや課題だと感じたこと

- ・グループ A では、距離が遠いことが一番の妨げだったという意見が多くあげられた。距離が遠いことで、求人情報を集めることが難しい・職場見学が難しい・一日に複数の企業を周ることでの負担が大きい等の困難があるようだ。次に多くあげられた意見は、就職活動と大学の授業との兼ね合いの難しさだった。また、金銭面の負担が大きく、就職活動時期は実家に帰り、そこから活動していたという参加者も2名いた。
- ・グループ B の参加者からは、北海道に対応していない求人サイトやエージェントが多いこと、髪色やネイルが自由な職場が少ないこと等、職場の選択肢や情報が少ないことが課題だと感じるという意見があった。また、海を渡ることへの抵抗感や物価のギャップ、水道代や電車運賃等が意外と高い等、住んでみなければわからない側面があることも北海道への転職や就職の妨げに感じる場合があると懸念していた。
- ・グループ C は、住居探しが大変だったという意見が多かった。移動距離があるため、移動費がかかってしまうことや JR の運賃が高いことが負担に感じるという意見もあがった。また、職場見学ができないことや転職紹介業社において北海道の情報が少ないことが課題だと感じるという回答もあった。さらに、転園や転入等の手続きの難しさや煩わしさが課題だとして、ネット手続きの導入を求める声も複数あった。他には、札幌の求人情報のエリア分けについて「広すぎて実際に行ってみたらギャップがあった」という意見もあった。
- ・道外での北海道の求人情報情報を集めることの難しさと、移動距離や日程調整、それにかかる費用が大きな妨げになっている。

◆移動距離や金銭面以外に、負担を感じたこと

- ・グループ A は、交通障害が負担に感じたという意見が一番多かった。次に多くあがったのは、オンライン面接の難しさであった。オンラインによるやり取りでは、職場の雰囲気もわからないことが不安であるという意見もあった。また、面接等で北海道に来る際の宿泊費が負担だったという声もあった。
- ・グループ B の参加者からは、ネット注文時に商品到着まで日数がかかることや、物件の内見は1日では難しく、宿泊費がかかってしまうことが負担だという意見があった。また、慣れない土地で働くことへの抵抗感があるのではないか、という意見もあった。さらに、物件探しにおいて、「Web 内見を活用しようと思ったが、細かいところの確認できないため、結局利用できなかった」という声もあった。
- ・グループ C の参加者からは、引っ越し業社を探すことや大型ゴミ収集の手続きが負担だったという意見があった。また、保育園調整の情報がネットで閲覧できないことや、北海道でのガソリン費・燃料費が負担だったという回答もあった。
- ・オンラインの面接対応を行う企業の少なさ、物件探しの際の Web 内覧機能を求める意見、就職(転職)活動後の物件選びの大変さや、家族連れの場合さらに負担がかかる現状があることが分かった。

◆上記の妨げや課題・負担を和らげるために行ったこと (Web の活用等)

- ・グループ A で就職活動のために大学4年生時は北海道の実家に戻っていたという参加者2名の内1名は、「単位を取得していたため実家に戻ることができた」と語り、もう1名は「特別にオンラインでゼミを受けさせてもらうことで実家に戻って単位を取得できた」と語った。また、北海道での就職活動をまとめた期間で行ったという参加者もあり、面接日を企業側に交渉することで交通費の負担を軽減する工夫をし

ていたと語った。また、追加質問の中で、「就職先について重要だと考えること」について意見を求めたところ、賃金はやはり重要であるとほとんどの参加者が納得していたが、勤務地が一番重要であったと回答した参加者もいた。また、「家賃補助がある企業が嬉しい」という回答もあった。

- ・グループ B は、引っ越し時の家具や電化製品の処分について工夫したという意見が多くあがった。結果的にリサイクル業社を装う詐欺行為に騙されそうになったという意見もあったが、地元掲示板サイトなどを活用して有効に整理できたという声もあった。また、複数の派遣会社に登録したという回答や、友人等から事前に引っ越し先の情報を集めるという回答もあった。
- ・グループ C では、2 名の参加者から「事前に上司と相談することで退職時期などについての的確なアドバイスを受けることができた」という意見があった。

議題4. 自身の経験を思い返し、こういったサポートがあれば助かったというようなものはありますか

- (1) 行政に求めるサポート
- (2) 民間企業に求める対応やサポート
- (3) UJターン者を増やすには何が必要だと思いますか

(1) 行政に求めるサポート

○A グループ

- ・ 交通費や宿泊費の補助等の金銭的なサポート
- ・ 交通費の補助等
- ・ 地方での企業説明会
- ・ 札幌で UJ ターンが決まった人へのお祝い金
- ・ 居住地区と UJ ターン希望先の行政間で求人情報等を連携してほしい
- ・ 市による物件紹介をしてほしい

○B グループ

- ・ 転職用の求人情報をまとめてほしい
- ・ 北海道の求人を取り扱っているサイトやエージェント等をまとめて掲示してほしい
- ・ 金銭的なサポート
- ・ 道外のチェーン店等の誘致を推進してほしい
- ・ インターン制度を充実させてほしい
- ・ 家電レンタルやリサイクル
- ・ お金の援助がやはり一番だと思う
- ・ 市役所等で相談窓口のようなところを作って欲しい
- ・ コールセンターやゲームデバッグ以外の仕事も誘致して欲しい（業種・職種の偏りがあるため）
- ・ 北海道専用の新卒求人サイトを作ってほしい
- ・ LINE やメール等でなんでも聞くことができる相談窓口を設置して欲しい
- ・ 指定ゴミ袋の取り扱い店を増やして欲しい
- ・ いろいろと市の施策等があると思うが、それを見えるように分かりやすく掲載してほしい（SNS による発信など）

○C グループ

- ・ 転入出に関わる（それ以外も含め）手続きをネットや Web 上で完結できるようにして欲しい
- ・ 小学校や保育園の手続きもペーパーレス化して欲しい
- ・ 引っ越し等に関わる補助金が欲しい
- ・ 必要な情報等を一括して「UJ ターンの方対象の情報ページ」としてわかりやすく作っていただきたい
- ・ 市役所等の手続きができる時間や曜日を拡張して欲しい
- ・ 道外からの新成人の受け入れを。新成人にはお金等のサポートを特にして欲しい
- ・ 地下鉄の延伸をしてほしい（丘珠空港方面や清田方面への延伸を）

(2) 民間企業に求める対応やサポート

○A グループ

- ・面接の結果や合否の決定、スケジュールの調整をしやすいしてほしい
- ・オンライン面接をできるだけ導入して欲しい
- ・引っ越し代の補助
- ・家賃の補助等
- ・Web 対応、リモート対応を行う企業が増えてほしい
- ・オンライン等の対応の充実
- ・写真一枚だけでも構わないので、社内の風景やオフィスの雰囲気等がわかるものの掲載をしてほしい
- ・面接時の移動にかかる費用
- ・就職後のひとり暮らしにかかる生活費の一部の負担
- ・引っ越しの日程猶予など拡充を図ってほしい

○B グループ

- ・地方求人の拡充
- ・Web 面接の拡充
- ・大手通販メーカーの道内物流拠点を作って欲しい
- ・勤務条件の制約を緩めて欲しい

○C グループ

- ・子どもがいる UIJ ターン者をサポートできるような取り組みを拡充してほしい
- ・道内の求人情報の共有やリモート対応を、もう少し柔軟に動いて欲しい
- ・引っ越し業者で、UJ ターン者向けに値引き等があるとありがたい
- ・月給は安くても構わないので、その分休日や社会保障を充実して欲しい
- ・JR 沿線の活性化をやっていただきたい

(3) UJ ターン者を増やすには何が必要だと思いますか

○A グループ

- ・支援体制を整えることと、その情報をきちんと発信することが大事だと思う
- ・多様な宿泊施設の拡充（マンスリーマンションとか、デイリーのもの、市営のホテルなど）
- ・東京やそれ以外の都市で、UJ ターン就職者の集いのようなフェア等を開催して欲しい
- ・高賃金の就職先
- ・豊富な求人情報
- ・積極的な情報提供（補助制度や移住促進の PR など）
- ・コールセンターのような気軽に電話できる相談窓口を設ける
- ・大々的な広報

○B グループ

- ・金銭的補助
- ・渡航費用の補助
- ・賃金の上昇
- ・各交通手段の費用を安くして欲しい

OC グループ

- ・ リモートワーク対応企業の増加
- ・ 各種手続きの簡略化
- ・ 引っ越し費用の補助
- ・ 一時的に住める仮住まいの提供
- ・ こういう意見会みたいなものを開いて、情報の組み上げをしてほしい
- ・ 金銭面の支援
- ・ 金銭的な支援(給付だけではなく貸付等も拡げて検討してほしい)
- ・ 支援に関する情報きちんと広めて欲しい
- ・ メールや LINE 対応できる相談窓口的なもの (U J ターン検討者は平日日中の時間はなかなか取れない)
- ・ 新成人の受け入れや企業の社会保障の充実
- ・ U J ターン就職者は無料バス使い放題等の特典など
- ・ 大企業の誘致

<議題4.意見のまとめと傾向>

◆行政に求めるサポート

- ・ グループ A は、金銭的なサポートを求める声がほとんどで、その中でも交通費と宿泊費のサポートを望む声が多かった。その他、物件探しの提案やサポートを望む声もあった。また、企業説明会の実施や求人情報を行政間で共有することを求める意見もあった。さらに、交通費や引っ越し代等特定の費用の援助だと、企業等の支援と重複する場合があって得をする人が出るかもしれないので、お祝い金のように平等に受けられる支援が良いと回答した参加者もいた。
- ・ グループ B の参加者からは、市が北海道の求人情報サイトやエージェントの紹介等を掲示してくれたら嬉しいという意見や、北海道専用の求人サイトの開設等を望む声があがった。また、消費者として魅力的な全国チェーン店の誘致を求める声や就職先として魅力的な企業の誘致等を求める声もあった。さらに、家電のレンタルやリサイクルのサービスを行って欲しいという意見や条件付きでもいいので金銭的なサポートをして欲しいという意見もあった。その他、LINE やメール等で気軽に相談できる相談窓口の設置や SNS の積極的な活用を求める声もあった。さらに、コロナワクチン接種等の医療サービスについて、他の市と連携して行政間の手続きにおける間口を拡げて欲しいという意見もあった。
- ・ グループ C では、転出・転入に関わる手続き等を Web 上で完結できるようにして欲しいという意見が多くあがった。その他では、引っ越しに関わる費用の補助金を望む声や道外からの新成人の受け入れを積極的に行って欲しいという声もあった。また、札幌経済の活発化のためにも地下鉄延伸が必要だという街づくりに関する意見もあがった。
- ・ すべてのグループにおいて金銭的な支援を求める声が多くあがった。UJ ターン者は、引っ越し費用や住居・就職先を探す際の宿泊費、移動費等が負担になっていることが窺えた。それと同程度行政からの求人情報の提供や、効果的な情報発信を求める声も多かった。また、平日以外且つ電話以外でも対応してもらえる相談窓口の設定と、U J ターン者へ向けた効果的な P R 情報（お役立ち情報なども含め）の発信を求める声も多かった。

◆民間企業に求める対応やサポート

- ・ グループ A の参加者からは、オンライン面接の積極的な導入やオンライン上で企業の雰囲気をわかりやすく伝えて欲しい等、Web 対応やリモート対応の充実を求める声が多くあがった。また、会社の雰囲気をわかりやすく伝えてほしいといった希望も多かった。一方、引っ越し代の補助や引っ越し後の生活費の一部

を補助して欲しいという意見もあった。面接時の移動費についても負担を軽減して欲しいという声があった。

- ・グループ B の参加者からは、もっと道外にも求人を出して欲しいという意見やすべての企業でオンラインでの面接も選択可能にして欲しいという意見があがった。また、就業に関して、服装等の制約を緩めて欲しいという意見もあった。さらに、就業してからの交通費について、全額負担して欲しいという声もあがった。その他では、通販サイトの大型倉庫を作って欲しいという回答もあった。
- ・グループ C の参加者からは、子どもがいる UJ ターン者をサポートできるような、臨時で子どもを預かることができる施設やサービスがあればもっと働きやすいという意見があった。また、求人情報の共有やリモート対応に柔軟に取り組んで欲しいという意見や、低賃金でもいいのでその分休日や社会保障を充実して欲しいという意見もあった。さらに、引っ越し業者に対して、U ターン者向けの割引サービスを求める声や民間企業に JR 沿線地域の活性化を求める声もあがった。
- ・全体の傾向としては、道外への求人情報内容の拡充と件数の拡充、リモート対応の導入を求める声が多かった。次に、引っ越し費用や交通費等の金銭的サポートを行って欲しいという意見が複数あった。

◆UJ ターン者を増やすには何が必要だと思いますか

- ・グループ A では、求人情報や企業説明会、UJ 就職者のフェア等について、積極的な情報発信が必要だという意見が多かった。また、宿泊施設の設置等、札幌に泊まる場所がない UJ ターン者のために宿泊サポートが必要という意見もあった。その他には、低賃金の改善交渉や魅力的な企業を増やすことやいい街づくりをすること等で UJ ターン者が増えるのではないかとという声もあった。さらに、電話で気軽に相談できる相談窓口があれば良いのではという意見もあがった。
- ・グループ B の参加者からは、「補助金や商品券の配布等、経済的な支援があれば戻ってきたいと思う」という意見があがった。また、渡航費用の補助や交通運賃を安くする等、移動費用においての負担軽減を提案する声もあった。さらに、北海道の最低賃金を上げる必要があるのではないかと、という意見もあがった。
- ・グループ C では、金銭的な支援が必要という意見が複数あった。また、引っ越しに関わる金銭的な負担を和らげるために引っ越し費用の補助や一時的な仮住まいの提供等を行ってはどうか、という意見もあった。さらに、意見会等で積極的に市民の声や情報を汲み上げることや情報の積極的な発信が必要だとする意見もあった。また、LINE 等で気軽に相談できる相談窓口を設置してはどうか、という提案もあった。さらに、リモートワークを増やして欲しいという声や低賃金・職がないという状況打破のために大企業の本社移転を望む声等があった。また、新成人の受け入れや企業の社会保障充実等を行うことで、北海道自体が面白くなって UJ ターン者が増えてくることに繋がるのではないかと、という意見もあがった。
- ・金銭的な支援の拡充と、道内全体的な賃金改善が必要だとする意見が多く挙がった。

IV. 課題点の整理と施策案

1. 調査結果から絞られた課題点と解消策(案)

今回の調査結果から、以下の要素が大きな課題として挙がった。これらの解消は若い担い手の人材流出を防ぐ鍵となる可能性が高い。

課題点	課題の内容
①求人情報に関する課題	新卒採用の求人情報にリーチするために、多くは民間の新卒情報サービスや転職エージェントサービスなどを利用しているが、大手サイトで道内企業の取り扱い件数が少なく、情報にリーチできていないことがUターンへの妨げとなっている
②移動距離と日程調整の負担	就職（転職）面接に移動を要する場合、日帰りで実施することが難しい。採用が決まった後も、物件の内覧や、引越業者の選定などやらなければならないことが多く、さらに家族がいる場合においてはその負担はさらに増加してしまう。
③費用負担の問題	②と同様に、就職（転職）面接に移動を要する場合、電車・新幹線・飛行機などの移動交通費に加え、宿泊費などの負担も強いられる。採用後も家具・家電の購入や、物件の敷金・礼金などの支払、小さな子供がいる家庭においては幼稚園・保育園・学校の制服や備品購入など多くの費用負担がある。
④その他の課題	・相談窓口が不明瞭 ・Web内覧可能な物件の拡充 ・子供の転園・編入に関する手続きの煩わしさ(窓口で直接出向く必要/電話受付のみなど)

これらを解消するための大枠の解消案として以下のようにまとめた。特にリーチしたい首都圏若年層がよく利用する求人情報サービスの多くは民間サービスであり、最も課題の大きいポイントを民間にゆだねてしまっている状況と言える。

課題点	解消策(案)
①求人情報に関する課題	・新卒採用求人を豊富に取り扱う安価なサイト運営 ・中途採用求人を豊富に取り扱う安価なサイト運営 ・サイトの確立と並行した、多くの人に認知してもらうための広報PR 官民
②移動距離と日程調整の負担	・採用面接のリモート対応検討 ・休日や夕方以降の時間対応の検討 民
③費用負担の問題	・採用面接のリモート対応検討 ・面接に係る移動費用、宿泊費用の補助 ・Uターン就職（転職）者への御祝い金の進呈 ・Uターン就職（転職）に係る費用の補助 官民
④その他の課題	・平日・日中以外も気軽に相談できる窓口（Webフォーム/メール/LINEなど）の設置 ・子供の編入手続き等の簡略化/Web対応の導入 官

2. その他個別の課題解消施策案

(1) U J ターン促進のタイミング

調査の結果から、道内企業への就職を促進するにあたって重要な分岐となるタイミングがいくつか存在していることが推察できる。

タイミング① 大学選択時

今回の調査で市内大学生と首都圏若年層で、道内企業への就職を行おうとする割合に大きな差異が生じることがわかった。(市内大学生 66.4%/首都圏若年層 25.2%)

タイミング② 就活開始前

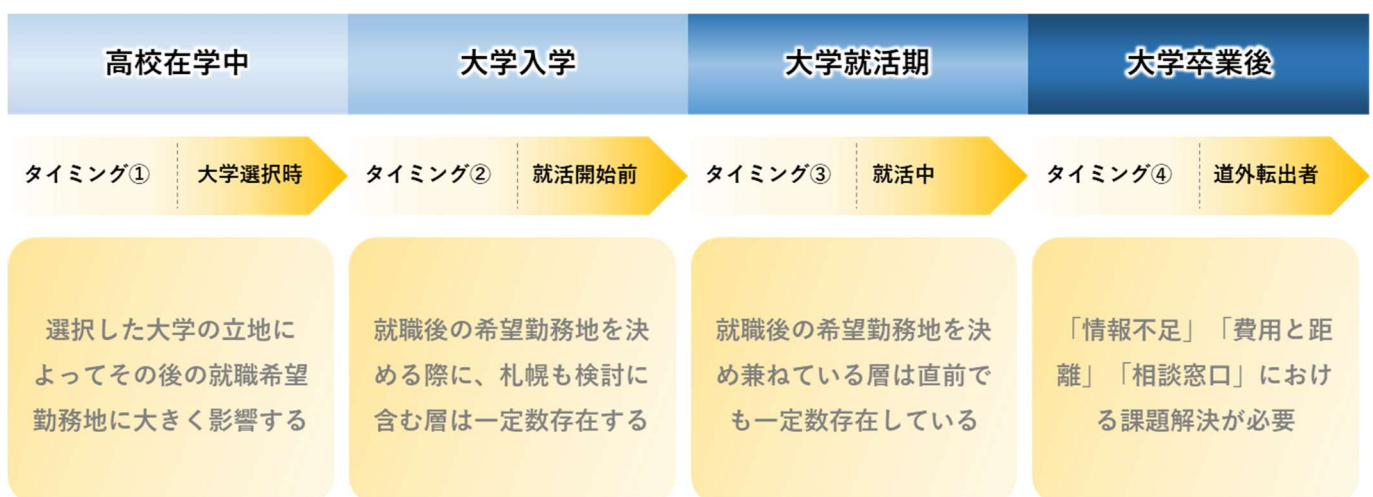
市内大学生では、就職先を道外にしようとする層は2割程度存在し、首都圏若年層では道外就職しようとする層は全体の6割程度存在するが、それらのさらに6割程度の層は札幌での就職も検討している可能性があることから、有効的な求人やアプローチができれば意向が変化する可能性がある

タイミング③ 就活中

今回調査で就職先勤務地について「まだわからない」と回答している層は、市内大学生で1割程度、首都圏若年層で2割程度存在している。新卒採用を行う道内民間企業において、これらの層を取り込むための継続的な求人情報の公開や企業説明会の実施などを行う効果は見込める可能性がある

タイミング④ 大学卒業後

U J ターンを検討するきっかけやタイミングは個人差があるが、大きな課題として「求人や支援情報が探しづらい問題」「U J ターンに係る費用と時間捻出の問題」「いつでも相談できる窓口の問題」などが障害として存在している



※p15 (8) 就職先(転職先)として希望する(した)勤務地 より

(2) U J ターン促進手段の検討

○プロモーションテーマ **官**

調査の結果から、今後札幌市および道内への U J ターン就職を促進するための P R テーマとしての提案
メインテーマ：

「自然環境（自然と都会の融合）」

サブテーマ：

「交通機関・公共空間の利便性」「北海道の食」「人の良さ」

※p17（9）道内での就職を希望する理由または U J ターンを検討(希望)する理由

※p33 ◆さっぽろ圏で生活する魅力について より

○有効媒体・手段（媒体毎の情報） **民**

今回の調査結果から、就職において重要と考えるポイント及び必要とする情報の優先度は以下のように
なると仮定できる。これらを踏まえ、どのメディア・媒体でどのような情報発信をすると有効的な P R
ができる可能性が高まるか想定をした

市内大学生：

(1 位)給与や各種手当 (2 位)福利厚生 (3 位)職場の雰囲気

首都圏若年層：

(1 位)給与や各種手当 (2 位)福利厚生 (3 位)職場環境(休暇取得・配属等)/具体的な仕事内容

・企業説明会

(網羅すべき内容)

具体的な仕事内容(従業員の 1 日の流れ

給与モデルや昇給に関する説明

細かな福利厚生の内容/独自の福利厚生などあればその内容

社内行事の風景や、日常の職場風景などの写真または動画など

リモートワーク/フレックスタイム制などの導入状況

前年の新卒採用者の研修風景 など

・公式 SNS

(網羅すべき内容)

新卒採用情報の投稿

日常の職場風景や仕事の雰囲気がわかる投稿

ユーモアのある投稿で馴染みやすさを演出する

(各ツール毎の特徴)

LINE：

国内で最も多く使用されている SNS アプリ。今回調査では市内、首都圏ともに男性の方が使用率が高
い結果となった

X(旧 Twitter)：

短い文章を用いて発信を行う。写真・動画の連携や、他サイトへのリンク掲載など誘導がしやす
い。全体の回答として企業情報の収集としての使用率が最も高い結果となった

Instagram：

写真や画像を大きく表示し、視覚的な訴求にすぐれている。今回調査では市内、首都圏ともに女性

の使用率が高い結果となった

・オンラインによるセミナー・企業説明会・面接の実施

今回の調査結果として、これらがオンラインで実施されていることによって、その企業への応募意欲が高まるかどうかを尋ねたところ市内大学生では 81.1%、首都圏若年層では 75.0%が「応募意欲が高まる」と回答していることから、未導入の企業・団体は導入検討する価値が大いにあると考える

※p7（3）就職（もしくは転職）活動時に参考としたメディア・媒体等

※p8（4）就職先（転職先）について重要だと考えること

※p9（5）就職先（転職先）検討にあたり、もっと知りたかった情報

※p10（6）オンラインによるセミナー・企業説明会・面接に対する意識 より

・新卒採用ページの掲載

まずは多くの企業が新卒採用ページを掲載すべきであるが、新卒採用における採用広告費用相場は 140 万円/中途採用における採用広告費相場平均は 118 万円という結果(※)も出ており、中小企業には非常に大きなコストであることがわかります。

※出典：株式会社マイナビ「マイナビ 2023 年卒企業新卒内定状況調査」より

○その他民間企業・団体側での検討を進めてほしい内容 民

以下、既に取り組んでいるのであれば分かりやすく HP や採用ページなどで謳うべく項目。取り組んでいなければ自社で導入できるかを再検討する価値は十分にあると考える。

1	リモートワーク
2	週休3日制
3	フレックスタイム
4	引越費用負担、家賃補助 等

(3) 他都市の施策事例

○補助金・助成金

・長崎市移住支援補助金（長崎市）

概要：東京 23 区に在住・通勤していた人の中で、長崎市へ移住して仕事をする人が対象となる。単身者の場合は 60 万円、2 人以上の世帯には 100 万円が交付されるもの。

要件：申請日から 5 年以上長崎市に住む必要があり、5 年以内に転出した場合、補助金を一括返還する必要がある。

引用：ながさき移住ウェルカムプラザ HP <https://nagasakijin.com/publics/index/97/>

・長崎市子育て世帯ウェルカム補助金（長崎市）

概要：長崎県外から長崎市に移住する子育て世帯が対象となっており、補助金 35 万円が交付される

要件：申請日から 5 年以上長崎市に住む必要があり、5 年以内に転出した場合、補助金を一括返還する必要がある。

引用：ながさき移住ウェルカムプラザ HP <https://nagasakijin.com/publics/index/97/>

・ながさき UIJ ターン就活費用補助金（長崎県）

概要：長崎県外から県内へ就職する学生を対象に、居住地域ごとに支給している支援金。

少しでも学生の負担を減らすため、申請へのステップは極限まで簡略化されている。

要件：HP 参照

引用：長崎県 HP <https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/shigoto-sangyo/uturn/uij-hojo/>

・奨学金返済アシスト事業（長崎県）

概要：大学などを卒業した後、対象業種の県内企業に一定の期間就業した場合、奨学金の返済を支援するもの。

要件：HP 参照

引用：長崎県 HP <https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kanko-kyoiku-bunka/gakkokyoiku/assist/>

・交通費助成（島根県）

概要：会社見学・面接などで来県する際、交通費（片道分）の助成を受けることができる。※上限 2 万円、年度内 2 回まで ※交通費を支払ったことがわかる書類（領収書等）が必要

要件：「しまね登録」に会員登録し、「基本情報」「WEB 履歴書」の必須項目を入力された方

引用：しまね移住総合情報ポータルサイトくらしまネット <https://www.kurashimanet.jp/support/>

・移住支援金（愛知県）

概要：東京 23 区（在住者又は通勤者）から愛知県へ移住し、移住支援金対象求人に就業した方に、国・県・市町村が共同で移住支援金※を支給する制度。単身者：60 万円/世帯者：100 万円＋子ども 1 人につき 100 万円

要件：HP 参照

引用：あいち UIJ ターン支援センター https://www.uij-aichi.jp/migration_seek.html

・移住支援金制度（富山県）

概要：東京 23 区（在住者又は通勤者）から富山県内に移住し、対象法人に就業した方に移住支援金※

を支給する制度。※世帯の場合は 100 万円[単身の場合は 60 万円]

要件：HP 参照

引用：くらしたい国、富山 HP https://toyama-teiju.jp/iju_support/search/

・とやまの魅力体験助成制度（富山市）

概要：富山県へ移住を検討する方を対象に、移住準備のために来県される際の交通費・宿泊費を助成する制度。

要件：HP 参照

引用：くらしたい国、富山 HP https://toyama-teiju.jp/iju_support/search/

・空き家情報バンク活用促進補助金/登録空家リフォーム等補助金（黒部市 他）

概要：空家情報バンクを利用して空家の売買・賃貸借契約した場合、市から補助金を交付するもの。

引用：黒部市 HP <https://www.city.kurobe.toyama.jp/category/page.aspx?servno=6122#yousiki>

・定住促進賃貸住宅家賃補助金/定住マイホーム取得支援補助金/住宅リフォーム支援補助金他(氷見市)

概要：市外から転入し、自己が居住するため民間賃貸住宅（空き家を含む）を借りて家賃を支払う方で、一定の条件を満たす方に対して、家賃に係る補助金を最長 2 年間交付/市内に住む一定の要件を満たす方または市外から転入した方で、自己が居住するための住居を新築または購入した場合に補助金を交付/転入された方自らが居住する目的で空き家を取得し、その住宅のリフォーム工事をした方、又は三世代同居をするために所有する住宅のリフォーム工事をした方に対し、補助金を交付

引用：氷見市 HP <https://www.city.himi.toyama.jp/gyosei/soshiki/ijuteiju/1/index.html>

○求人情報サポート

・くらしまネット仕事検索（島根県）

島根県下最大の求人数を誇る求人サイト。サイト掲載のみだけではなく、職業紹介スタッフによるマッチングサポートやオンライン企業見学なども行える。

引用：しまね移住総合情報ポータルサイトくらしまネット <https://www.kurashimanet.jp/>

・出張ハローワーク！おかえりふるさとへ（盛岡公共職業安定所）

概要：学生等の帰省時に合わせ、駅改札口に「出張ハローワーク！おかえりふるさとへ」を設置

引用：盛岡公共職業安定所

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11600000-Shokugyouanteikyoku/0000118128.pdf>

・Gターン！ぐんま若者応援就職面接会（群馬労働局）

概要：東京都内にて群馬県内へ就職を希望する大学・短大・専修学校等の卒業予定者及び既卒3年以内の者を対象に、県内有力企業23社を招き、合同の就職面接会を開催

引用：群馬労働局職業安定部職業安定課

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11600000-Shokugyouanteikyoku/0000118125.pdf>

・おかやま交流・定住フェア（岡山市）

東京や大阪などの主要都市にて、岡山に住みたいという希望者に対し、くらしや仕事に関する細やかな相談を受け付けられるイベントを実施（就職相談コーナー/就農相談コーナー/住まいの相談コーナー/市町村相談コーナー/岡山県産ぶどうの試食コーナー）

引用：岡山労働局職業安定部職業安定課

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11600000-Shokugyouanteikyoku/0000118132.pdf>

○その他のサポート

・UIターンに関する総合相談窓口の設置

ながさき移住ウェルカムプラザ（長崎市）

ふるさと島根定住財団松江事務局（島根県）

富山くらし・しごと支援センター（富山県）

・レンタカーの貸出サポート（長崎市）

概要：長崎市の生活環境や暮らしなどを見てまわる際の移動をスムーズにするため、希望者へレンタカーを無料で貸し出すという施策

要件：本市へ移住を検討している長崎県外在住の方。レンタカー利用後はながさき移住ウェルカムプラザに移住相談が必須となる。

引用：ながさき移住ウェルカムプラザ HP <https://nagasaki-jin.com/publics/index/80/>

・よかパス移住体験宿泊サポート（長崎市）

概要：長崎市へのUターン・Iターン希望者に対して「ながさきウェルカムパスポート」を発行し、長崎市内で宿泊する際に宿泊料の割引などの特典が利用できるという制度

要件：HP 参照

引用：ながさき移住ウェルカムプラザ HP <https://nagasaki-jin.com/publics/index/125/>

・引越し費用割引（島根県）

概要：県外から島根県内への引越しの際、引越費用の割引サービスを受けることができるもの。※ご自身で直接見積もり依頼された後の申込みはできない

<対応業者>

アート引越しセンター：基本料金 30%割引（3/15～4/15 は、10%割引）

サカイ引越センター：基本料金 20%割引（3/15～4/15 は、割引適用なし）

要件：「しまね登録」に会員登録し、「基本情報」「WEB 履歴書」の必須項目を入力された方

引用：しまね移住総合情報ポータルサイトくらしまネット <https://www.kurashimanet.jp/support/>

・UIターン応援カード（島根県）

概要：島根県へのU・Iターン希望者や18歳以上の学生に対して、各種割引や特典サービス等を受けることができる。<カード提示でこんな特典が受けられます>宿泊施設の宿泊料金を、特別割引、住まいを探すときの仲介手数料を特別割引、自動車教習所の教習料金を特別割引 など

要件：「しまね登録」に登録し、「基本情報」の必須項目を入力している方のうち、以下①②③のいずれかに当てはまる方①島根県外にお住まいのU・Iターン希望者②18歳以上の学生（島根県内在住の学生含む）③島根県にU・Iターンして1年以内の方※②のうち既卒者は対象外

引用：しまね移住総合情報ポータルサイトくらしまネット <https://www.kurashimanet.jp/support/>

・地方創生「移住・定住」住宅ローン/愛知県移住者応援プラン（名古屋銀行）

概要：ご本人が居住する住宅の建築・購入・増改築資金の通常の住宅ローン申込条件を緩和

引用：名古屋銀行 HP <https://www.meigin.com/release/files/20190719ijuloan.pdf>

・とやま移住応援団（富山県）

概要：富山県への移住を検討している方に優待カード「TSUKAENcha」（つかえんちゃ）を発行し、協力事業者へのカードのご提示で移住前・後に役立つ各種割引サービス等、特典を提供する取り組み。

引用：くらしたい国、富山 HP https://toyama-teiju.jp/iju_support/search/